

卷頭言

新学習指導要領について

県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事 小山 和紀

これからの社会では、Society5.0の時代が到来し、人工知能、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが「非連続的」といえるほど劇的に変わるといわれています。そして、人と機械が複雑かつ高度に関係し合う社会となっていく中、機械を理解し使いこなすためのリテラシーや、その基盤となるサイエンスや数学、分析的・クリティカルに思考する力、全体をシステムとしてデザインする力がこれまで以上に必要な力となるといわれています。

新学習指導要領においても、社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり、意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するために、数学I「データの分析」において「仮説検定の考え方」、数学A「場合の数と確率」において「期待値」（数学Bから移行）、数学B「統計的な推測」において「区間推定及び仮説検定」を新たに扱うこととし、統計的な内容等の改善・充実を図りました。今後の社会において数学教育が担う役割は、益々重要なものとなると考えます。

また、新学習指導要領では、情報活用能力を、言語能力や問題発見・解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付けるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善において、情報活用能力の育成を図るため、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図ることとしました。これまで以上に、ICTが大きな役割を果たすと期待されています。

知識及び技能の習得には、教師が分かりやすく教えることが重要です。その際に、大型提示装置や実物投影装置といったICTを活用することは有効だと思います。また、思考力、判断力、表現力等を育成するには、生徒が、これまでに習得した知識・技能を使いながら、情報を集め、思考・判断する学習活動や自分の考えをまとめて発表する学習活動に、生徒が学習者用コンピュータを用いることも有効だと思います。新学習指導要領の解説には、それぞれの科目について、ICTの活用場面が記載されておりますので、ぜひ、参考にしてください。

終わりに、数学部会の事務局及び会員の皆様による、数学教育の改善・充実に向けた熱意ある取組に感謝するとともに、数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」が一層充実・発展し、今後とも多くの先生方の研修の一助となり、日々の実践に活用されることを祈念しております。